

2010年10月29日

マツダ株式会社

2011 年3 月期 第2四半期決算発表

説明会での主な質疑応答

Q:円高が長期化しているが、今期はどのように対応していくのか教えて欲しい。

A:主要通貨の円高により、通期の営業利益は期初見通しから、400 億円を超える悪化が見込まれますが、販売増および車種構成、カントリーミックスの改善に加え、マツダグループを挙げて全領域でのコスト改善に取り組み、円高影響の最小化を図ってまいります。

Q:第1 四半期から為替感応度に変更はありますか。

A:通期の為替感応度は変更ありません。1 円変動による年間の営業利益への影響額は、US\$で 30 億円、ユーロで 12 億円、カナダ\$で 10 億円、オーストラリア\$で 15 億円です。

Q:中国および新興国が好調ということだが、具体的に教えて欲しい。

A:中国は堅調な需要に加えて低燃費車に対する補助金に Mazda3(日本名:マツダ アクセラ)が適合し販売が伸びています。Mazda2(日本名:マツダ デミオ)についても来年 1 月より低燃費車に適合し販売が伸びることが予想されます。Mazda3 の生産を南京に移管し、好調な販売をサポートする体制にしました。また販売店についても年末までに 300 店舗達成に向け確実に進んでいます。

タイを含めた東南アジア各国については Mazda2 が予想以上に好調でした。Mazda2 はタイ・マレーシア・インドネシアで導入に成功し、すでにフルキャパシティの AAT(オートアライアンス(タイランド))だけでは需要に対応できないため、オーストラリア向け Mazda2 の生産を国内工場に移管し需要増に対応してまいります。

Q:オーストラリアが好調とのことですが、具体的に教えてほしい。

A:オーストラリアはリーマンショックの影響も比較的小さく、需要も堅調に推移しています。マツダのプレゼンスも高く、上期のシェアは8.4%、9月単月では10%を超えました。通期のシェアは上期から横ばいで、台数は8万7千台ほどを見込んでいます。車種では Mazda3 が健闘しています。

###